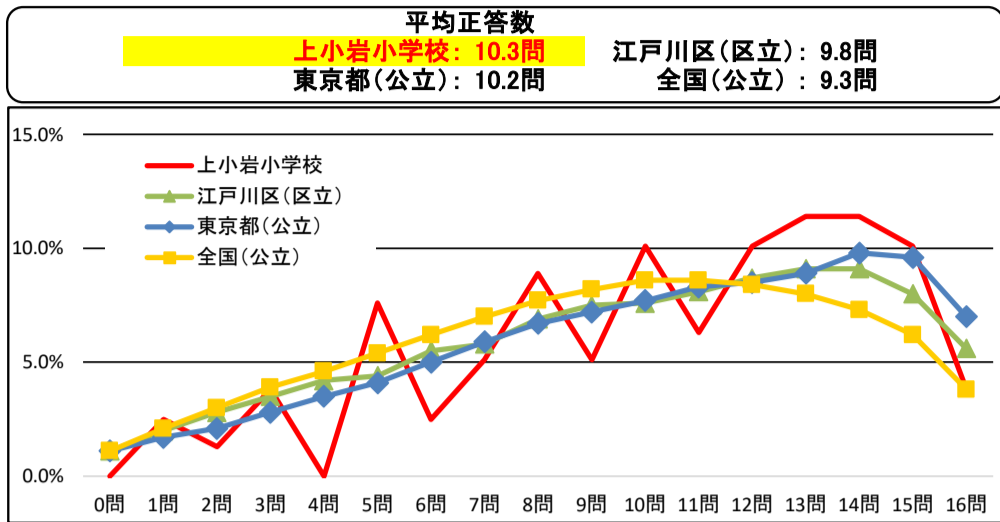


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】 上小岩小学校

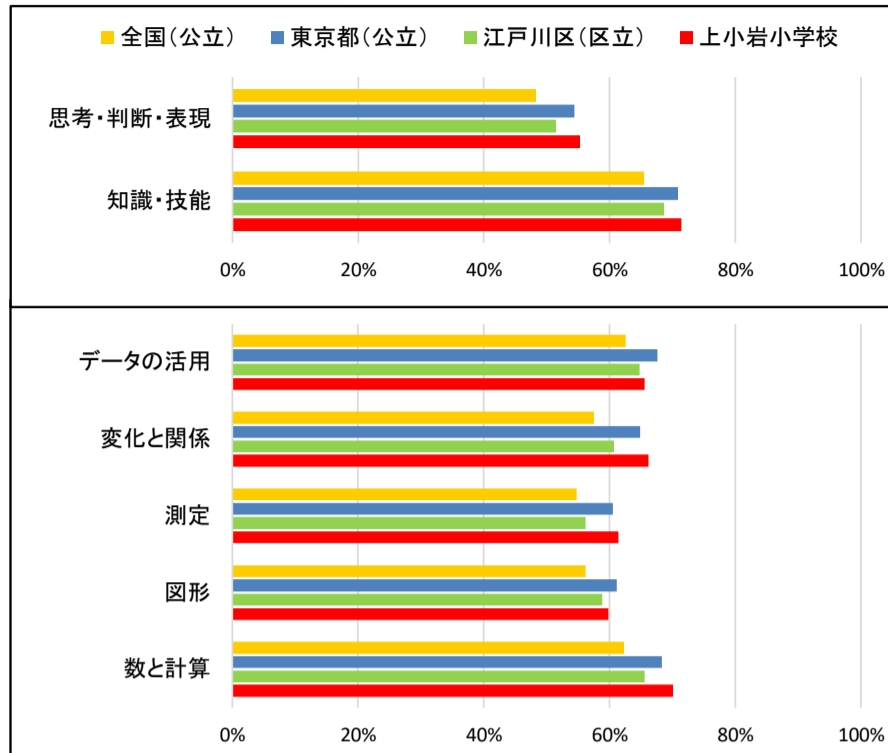
正答数分布



【平均正答率の差】

上小岩小学校	64%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	0.0

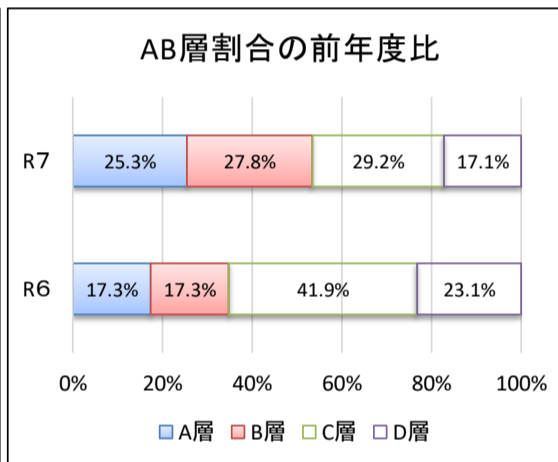
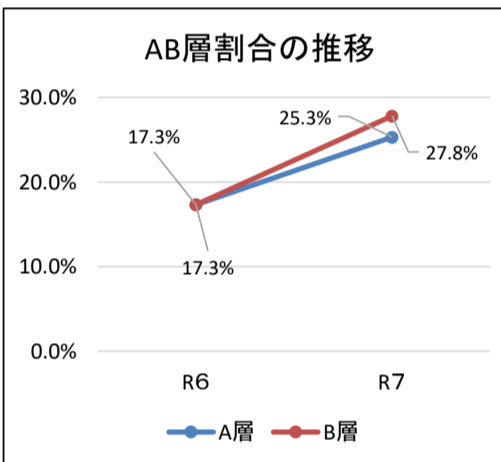
「領域別」の結果



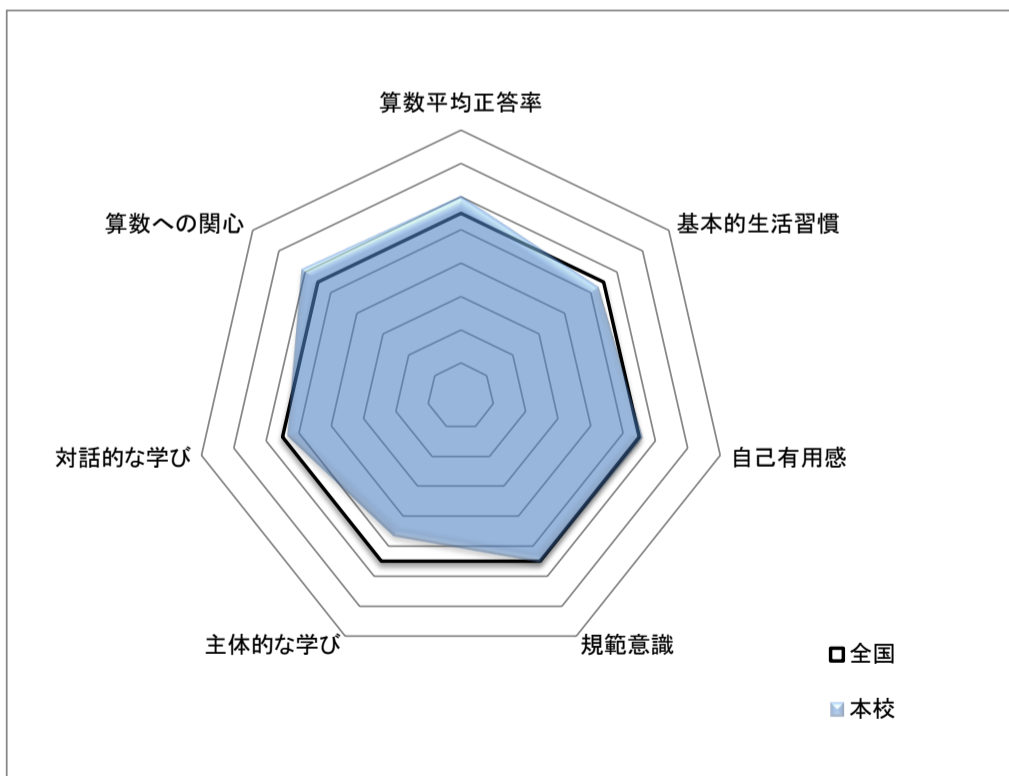
四分位における割合(都全体の四分位による)

算数	上位 ← 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 7~10問	D層 0~6問
上小岩小学校	25.3%	27.8%	29.2%	17.1%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・全般的に全国を上回り、特に「算数平均正答率」と「算数への関心」は際立って全国を上回っている。
- ・唯一「主体的な学び」については、全国を大きく下回り課題と考える。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習は、学力の基礎を身に付けるために大切です。自ら学習する習慣が身に付いているか、学習した内容が定着しているかなどについて確かめてください。
- ・「早寝早起き」「自分で身支度をする」「登校時刻を守る」などの規則正しい生活習慣が、楽しく学校生活を送るための土台となります。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・昨年度に比べるとAB層の割合が大きく伸びて、5割を超えるようになった。特にB層が10%以上増え、C層が10%以上減ったことが際立っている。
- ・AB層は、全国や都の平均と比べても上回っている。
- ・業間を使つての基礎的な学力定着の取り組みや、家庭学習の習慣が身に付くよう「家庭学習計画表」を用いた取組みも行っている。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- 【体系的な校内研修の実施】学校の研究主題に基づいた研修や、若手教員向け、中堅教員向けなど、経験に応じた研修プログラムを企画・実施。
- 【メンター制度・OJT】経験豊富なベテラン教員が若手教員の指導役(メンター)となり、日常業務や授業実践を通じて具体的な指導・助言を行う。
- 【情報共有と協働】教職員がアイデアや指導方法、教材などを積極的に共有できる文化を醸成する。校務分掌ごとに目標を設定し、全教員で達成度を共有・評価する仕組みも有効である。
- 【業務改善と環境整備】過度な業務負担を軽減し、教員が授業準備や自己研鑽により多くの時間を割けるようにする(例:ICTを活用した業務効率化など)。

・基礎学力の保障

- 【「読み・書き・計算」といった基本的な知識・技能に加え、それらを活用して問題解決する力や、主体的に学習に取り組む態度まで含めた「確かな学力」を培う。
- 【個別最適な学びの実現】児童の特性や学習進度に応じた指導方法・教材を提供し、一人ひとりの理解を確実にする。支援が必要な子どもにはより重点的な指導を行う。
- 【言語活動の充実】知識を活用して他者に説明したり、考えを共有したりする活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を養う。

・学習習慣の確立

- 【学習のねらいの明確化】単元ごと、あるいは授業ごとに『今日の目標(ねらい)』を児童に分かりやすく提示することで、学習への意識を高める。
- 【「読み・書き・計算」の徹底】基礎・基本の確実な定着を図るため、反復練習や習熟度別学習などを取り入れる。
- 【具体的な学習方法の指導】ノートの取り方、調べ物の方法、調べたことまとめ方など、具体的な「学習の仕方」を授業の中で指導する。これは家庭学習にも応用できる力となる。

・AB層の育成

- アクティブ・ラーニングを意識した授業を取り入れる。話し合い活動やグループワーク、対話的な活動などを通して主体的な参加を促していく。「わかる」「できる」という達成感を積み重ねていく。